

ささやかな奇跡

ふとした日常にささやかな奇跡が起こる。……愛しさ、切なさ、優しさ、懐かしさが重なり合う、そんな物語をご紹介します。



「きみにしか聞こえない」
乙一著
角川書店
JFオ
篠崎ほか所蔵

今、さみしい思いをしている人。今、誰かの受けた痛みを自分の事のように感じている人。そして今、悲しみをかかえながらも前を向いて歩こうとしているあなたへ……。この3つの“ちょっと不思議な物語”を贈ります。それぞれの物語で起こるちいさな奇跡から、生きることの優しさと温もりを感じて頂ければ、と思います。



「天の光はすべて星」
フレドリック・ブラウン著
早川書房
B9337
篠崎ほか所蔵

片足を失った元宇宙飛行士のマックスは、木星探査計画を公約に掲げた議員の存在を知り、その応援を決意する。計画が実現へ近づくにつれ、宇宙への憧れを捨てられずにいた彼の中でかつての想いが再燃していく……。夢が潰れて絶望したとしても、誰かに託す事で想いは受け継がれ、生き続けていく。ラストシーンの哀愁をぜひ味わってください。



「いつまでもデブと思うなよ」
岡田斗司夫著
新潮社
595オ
篠崎ほか所蔵

“1年で50キロの減量に成功”。これを奇跡と呼ばずして何と呼びましょう。著者が提唱するのは、食べたものの記録をつけるだけのレコーディングダイエット。これで自分の食生活や体型をコントロールできれば、人生そのものだってコントロールできるはず、と述べています。一年の計は元旦にあり。年末年始のお休みに、本書を読む事から始めてみませんか。



「流星ワゴン」
重松清著
講談社
BFシ
篠崎ほか所蔵

「もう死んでもいいかも」——家庭に、会社に、人生に疲れた主人公がふとそう思った時、ある父子の乗る不思議なワゴンが彼の前に止まります。ワゴンは人生をやり直すための過去に連れて行ってくれますが、どうすることもできません。しかし現実には近づくにつれあるがまま受け入れ、そして新たな一歩を踏み出します。「やり直す」勇気は自分次第です。



「彩雨亭鬼談」
杉村顕道著
荒蝦夷
Fス
篠崎ほか所蔵

仙台で活躍した作家・杉村顕道の怪談全集。知人が遭遇した出来事、時代もの、自身の体験談などバラエティに富んだ話を落語調の語り口でテンポよく綴っています。巻末には、ご息女の杉村翠さんによる父・顕道の回想録も収録。人情味溢れる話が多く、怪談なのにどこか温かい、冬におすすめの一冊です。



「MOMENT」
本多孝好著
集英社
BFホ
篠崎ほか所蔵

ある病院に「死を目前にした人の願いを叶えてくれる」仕事人が現れるという噂が立ちます。ひよんなことから死にゆく人々の願いに寄り添うことになる主人公。それぞれの思いは複雑ですが、人生の最後に遂げたい思いというのは、決して美しい願い事ばかりではないのかもしれませんが。もし自分なら……そんなことを考えながら読みました。



「関ヶ原島津退き口」
桐野作人著
学研パブリッシング
214特
篠崎所蔵

戦国時代のクライマックス、関ヶ原の戦い。西軍の敗戦が濃厚となった時、四方を東軍に取り囲まれた九州の雄・島津義弘は退却するにあたり、後に「島津退き口」といわれる敵中突破を敢行。関ヶ原から鹿児島までの千数百キロの逃避行の真相を豊富な資料をもとに解き明かします。島津主従の絆が起こした奇跡。一読の価値あります。



「カラフル」
森絵都著
理論社
JFモ
篠崎ほか所蔵

僕は死んだはずだった。「おめでとうございます、抽選に当たりました！」たまたま僕の魂の前に、おかしな天使がひょっこり姿を現すまでは——。生きている以上、避けることのできない現実のキビシさと、それでも生きていく事の素晴らしさを描いた、森絵都の大傑作だと思います。特に、モノクロだった世界が鮮やかに色づいてゆくラストシーンは最高の一言！

スタッフのセレクション！ 第21回

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「価値観の違い」

自分にとって大切だと信じていたことが他人にはどうでもよいことだったり、その逆だったりして、戸惑うことがたまにあります。これから紹介する三冊は、それぞれ異なる味わいの本ですが、いずれも読後に自分自身の妙なこだわりを打ち砕かれて、気持ちが楽になった作品です。

「羊歯」…主人公の男は面白みのない生活をおくっていますが、ある密かな楽しみを持っています。とても珍しい羊歯の生育場所を自分だけが知っていて、将来そこに家を持つのが夢なのです。ところが、ある日その秘密の場所に若いカップルが現れ……。両者の価値観の違いによって起こる残酷な結末が、むしろすがすがしい短編小説です。

「世界民族博物誌」…初めて招待された家で、主人がぼろぼろの古い洋服で出てきたら、驚いてしまいますね。でもトンガでは、それは歓迎のしるしかもしれません。正装する時に、腰ミノの上に巻くゴザは、古ければ古いほど価値が高く、お年寄りなどはすり切れたゴザを身につけていることが多いのだそうです。世界の文化の違いと豊かさを楽しく学べる一冊です。

れば古いほど価値が高く、お年寄りなどはすり切れたゴザを身につけていることが多いのだそうです。世界の文化の違いと豊かさを楽しく学べる一冊です。

「パパラギ」…サモアの酋長が西洋文明を体感し、その印象をストレートに語ったものです。文明に毒された西洋人たちへの批判は、ユーモラスでありながら、いちいちもつとも。本を閉じた後、こんな風に生きられたらなあ……と憧れと諦めの混じったため息をついたものです。今も忙しい日が続いた時に頁を開きたくなります。

「羊歯」(『英国短篇小説の愉しみ1』所収)	西崎憲/編	筑摩書房	933E1	東葛西ほか所蔵
「世界民族博物誌」	『月刊みんぱく』編集部/編	八坂書房	389セ	中央所蔵
「パパラギ」	ツイアピノ/〔述〕	ソフトバンククリエイティブ	B361ツ	篠崎所蔵

そのメロディーに魅せられて

CD「アヴェ・マリア33」
請求記号:C6707901 篠崎ほか所蔵

グレゴリオ聖歌中の最古の聖母讃歌から20世紀の作曲家によるものまで、実に多彩な「アヴェ・マリア」を味わうことができる、聖なる夜にぴったりなCDはいかがでしょう。
信仰心を全く持ち合わせていない私ですが、カッチーニ作曲の「アヴェ・マリア」を聴いて、苦しみの中で

聖母マリアの慈悲にすがる祈りの心持を、思い込みみ激しく一瞬にして感得したような気に。それ以来、鎮静には欠かせない曲になりました。何せ本気で跪く私が見えましたからね。皆さまにも、マリア様の微笑みの如く、一条の光のように心を照らす1曲が見つかりますように！